

島根県の地震

令和元（2019）年6月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

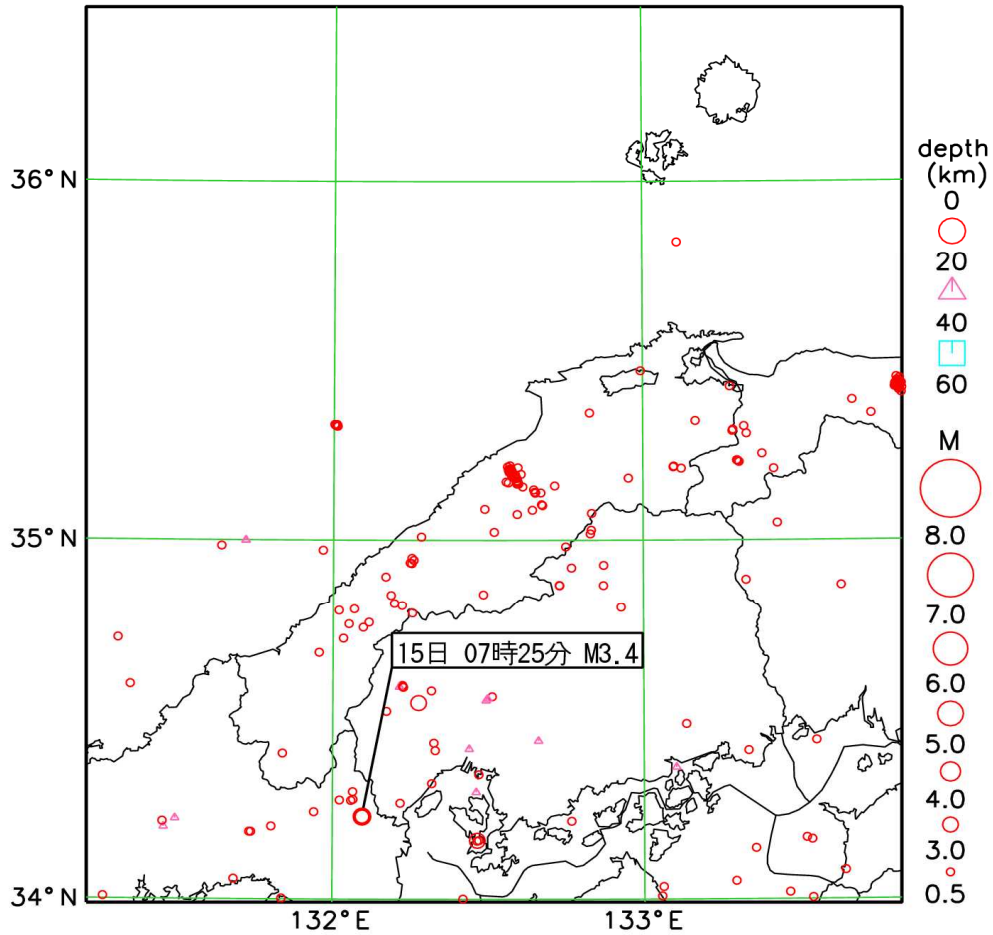
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2019年6月1日～30日

2019 06 01 00:00 -- 2019 06 30 24:00

N=233



[概況]

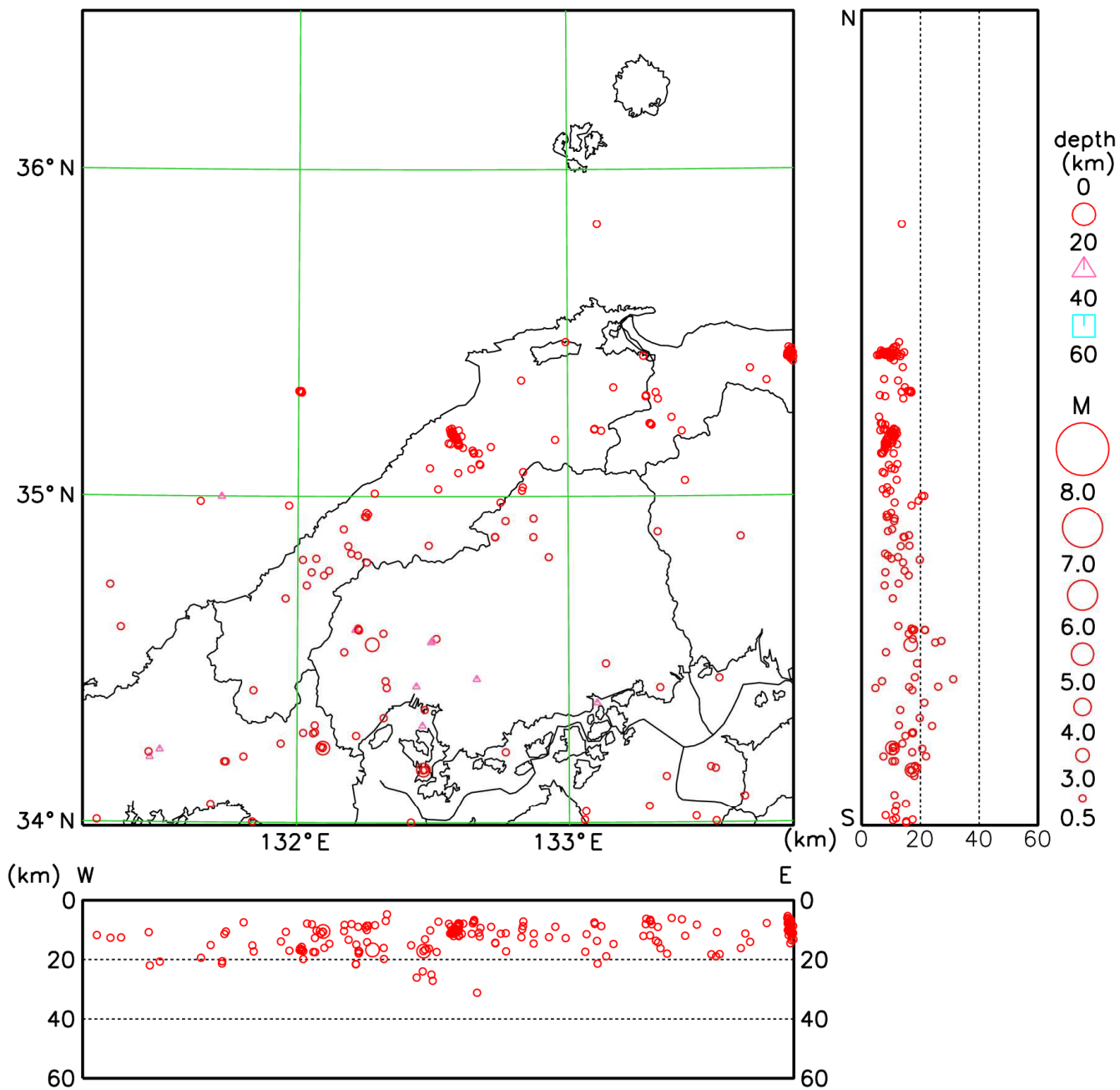
今期間、M0.5以上を観測した地震は233回（5月は236回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、1回でした。

15日07時25分 山口県東部の地震（深さ11km、M3.4）により、吉賀町で震度1を観測したほか、広島県、山口県で震度1を観測しました。

[断面図]

2019 06 01 00:00 -- 2019 06 30 24:00



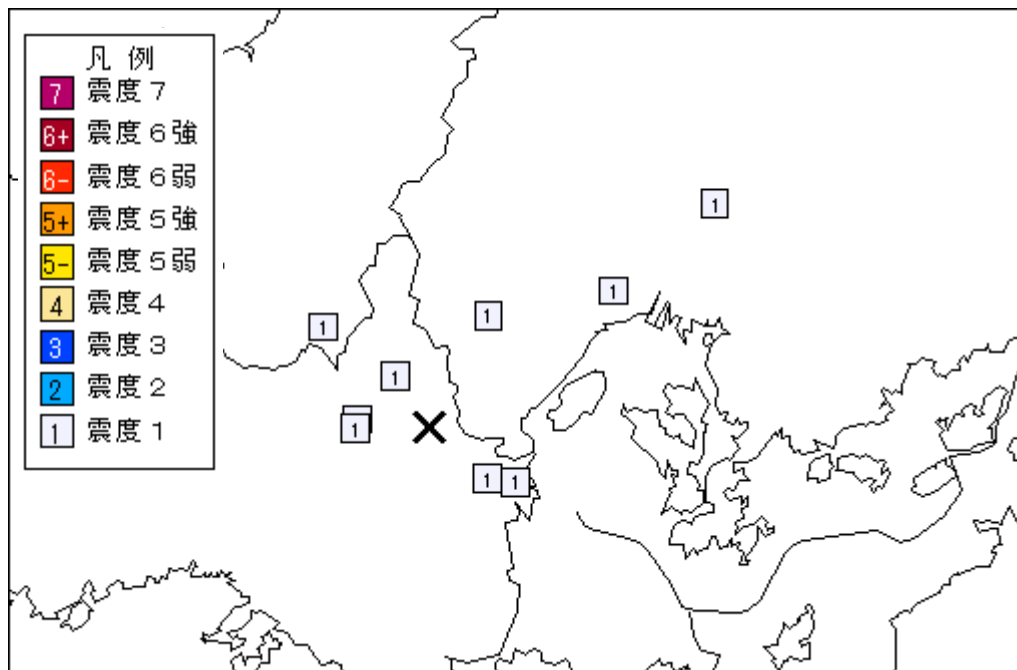
6月の島根県内の地震表（震度1以上）

発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2019年06月15日07時25分	山口県東部	34° 13.7 ' N	132° 05.7' E	11km	M3.4
----- 地点震度 -----					
島根県 震度 1：吉賀町六日市*					

・地点名の後に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【観測点震度分布図】

2019年6月15日07時25分 山口県東部



×印は震央を示す

地震一口メモ

いつ起こるか分からない地震・津波に備える

令和元年6月18日22時22分に山形県沖でマグニチュード6.7の地震（深さ14km）が発生し、新潟県村上市で最大震度6強を観測したほか、北海道から中部地方にかけて震度6弱～1を観測しました。この地震に対して気象庁は、津波注意報を山形県、新潟県上中下越、佐渡、石川県能登に発表しました。この地震により、山形県の鶴岡市鼠ヶ関で最大11cmの津波を観測したほか、秋田県・山形県・新潟県・石川県の沿岸で津波を観測しました。また、この地震により、重傷8人、軽傷33人などの被害が生じました（7月1日現在、総務省消防庁による）。

北海道沖から新潟県沖にかけての日本海東縁部では、過去にも1833年庄内沖の地震（M7.5、死者97名）、1964年新潟地震（M7.5、死者26名）、1983年日本海中部地震（M7.7、死者104名）、1993年北海道南西沖地震（M7.8、死者202名）等、津波を伴って甚大な被害をもたらした大地震が発生しています。



平成5(1993)年7月12日 北海道南西沖地震

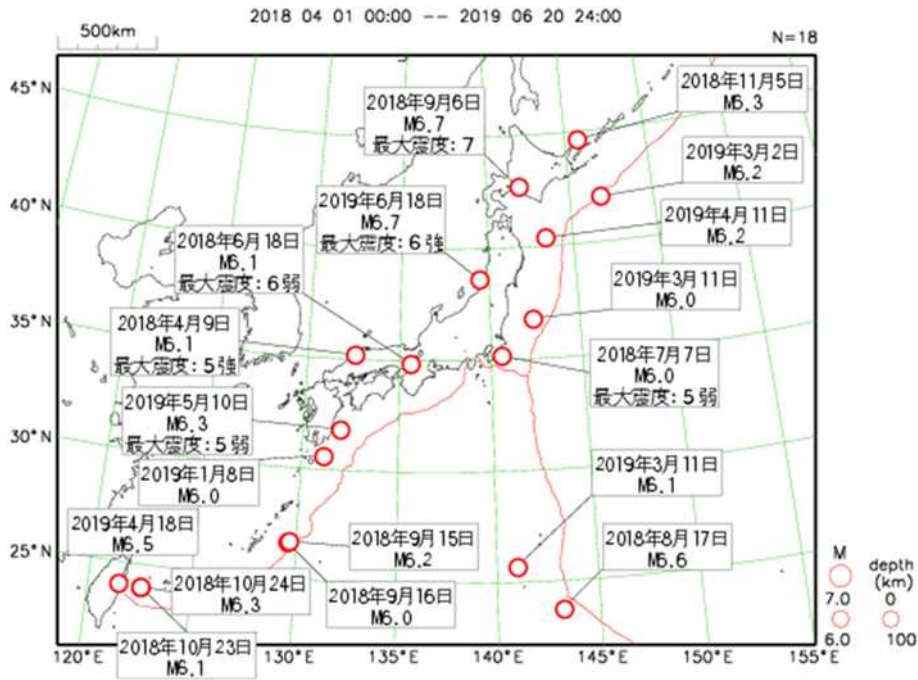


平成5(1993)年7月12日 北海道南西沖地震

上記地震では、島根県内でも被害が出ており、1964年新潟地震では住家床上浸水1、住宅一部破損38、水田冠水10ha（日本被害地震総覧より）、1983年日本海中部地震では隠岐諸島、島根半島を中心に負傷者5人、住家床上浸水141、同床下浸水277、漁船319隻、その他漁具・養殖施設等に（島根県災害年報より）、また、1993年北海道南西沖地震では隠岐諸島、島根半島を中心に、住家床上浸水5、同床下浸水78、漁船93隻、その他漁具・養殖施設等に被害が生じました（島根県災害年報より）。このことから今後も日本海東縁部で発生した地震による津波で、島根県でも被害が生じる可能性があります。

次の図は、2018年4月1日～2019年6月20日までに、日本及びその周辺で発生したマグニチュード6以上の地震をプロットしたものです。

この図を見ると、前述の山形県沖の地震以外にも北海道胆振地方中東部（M6.7）、大阪府北部（M6.1）、島根県西部（M6.1）、日向灘（M6.3）等、1年2か月の間で18回発生しており、1か月に1回程度は、日本及びその周辺でマグニチュード6以上の地震が発生していることが分かります。



震央分布図



平成 30 年北海道胆振東部地震
地震発生後



平成 30 年北海道胆振東部地震
地震発生前

日本においては、マグニチュード6～7クラスの地震は、いつどこで発生してもおかしくありません。自分だけは大丈夫という意識を変え、日頃から地震、津波の備えを心がけておくことが大切です。

(日本付近で発生した主な被害地震(平成8年以降))

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai1996-new.html#higai1996>

(明治以降1995年までに、我が国で100人以上の死者・行方不明者を出した地震・津波)

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html>